

産業活性化に向け 農業クラブが貢献できること

四国ブロック 愛媛県立伊予農業高等学校

生物工学科 2年 松原 悠子

生物工学科 2年 菅 優太

園芸流通科 2年 矢吹 彪



1 四国ブロックの概要

日本学校農業クラブ四国連盟は、四国四県（香川県・高知県・徳島県・愛媛県）で構成されており、「四国はひとつ」という大きなスローガンのもと、農業関係学校 30 校、クラブ員 5,043 名が日々目的を持って活動をしています。また、各種発表や技術検定、農業鑑定競技にも熱心に取り組み、農業クラブ全国大会でも優秀な成績を収めることができています。特に愛媛県は各種発表県大会を年に 2 回行い、生徒の活動の場を増やすと共に、経験をより多く積みませ、全国大会での最優秀を目指しています。

2 伊予農業高等学校の紹介

大正 7 年に伊予郡立実業学校として創立。大正 11 年に愛媛県立伊予実業高校となり、その後、昭和 23 年に愛媛県立伊予農業高等学校と改称されました。平成 23 年度には特用林産科が新設され、現在は 6 学科（生物工学科、園芸流通科、環境開発科、食品化学科、生活科学科、特用林産科）全 18 クラスで、男子 338 名、女子 358 名、計 696 名が在籍しています。校訓は「向学・自律・勤労」



で、スローガンが「声出せ 汗出せ 力出せ」です。地域の方からは“伊予農”という愛称で親しまれています。本校で収穫した農作物は圃場内にある「いきいき市」（直売所）で販売し、地域とも関わりが深い学校です。2 年後には 100 周年を迎えます。これからも地域に根ざした活動を行い、地域と共に成長する学校でありたいと思います。

3 産業活性化に向け、本校が取り組んでいること

(1) **愛媛県の特産品を用いた加工品作り**

はじめに

裸麦は、収穫量 29 年連続日本一を誇る愛媛県の特産品で、全国の裸麦収穫量の約 34% を占め、西条市、松前町、東温市が主な産地になっています。特徴は、食物繊維が豊富でコレステロール上昇抑制作用などがあり、優れた食品素材であることが分かっています。この裸麦で、地域産業を活性化できないかと考えました。

地元業者との連携

パンの商品化に向けては、篠崎ベーカリー（地元のパン屋さん）の社長さんを度々訪ね御指導いただき、裸麦パンと伊予市あじの郷（くに）五勇士をコラボさせた5種類のパンを開発しました。

～伊予市あじの郷（くに）五勇士とは？～

右の図のように、それぞれ伊予市の特産品である、鯛、ビワ、ミカン、栗、ハモを表しています。本校が位置する伊予市は、「まちづくり計画」として「食」と「食文化」をテーマに伊豫國（いよこく）「あじの郷（くに）」づくり構想を定め、市民、地域企業、行政が一緒になって実行委員



伊予市あじの郷五勇士

会を立ち上げ、「あじの郷」に向けて取り組んでいます。豊かな自然と魅力ある地域資源（地域の宝）を生かし、特産品の開発や販路拡大、後継者の育成を目指すとともに食育と食文化の伝承などに積極的に取り組みます。これらの取り組みを通じて、明るく、楽しい、しゃれた「郷（くに）」を創り、新たな地域内産業の創出と本市の基幹産業である第一次産業の再生と興隆を図ることで地域の活性化、過疎化の抑制につなげようとするものです。

（引用：伊予市ホームページ）

普及活動

完成した五勇士パンを地域のイベントを中心に販売しました。それまで、五勇士パンは、単品での販売でしたが、専門学校の学園祭で、初めてセット売りを実現できました。不安もありましたが、15セットを完売でき、私たちの目標が一つ達成できました。

9月、松山空港空の日フェスタにて販売し、ついに私たちの五勇士パンを愛媛のお土産として、全国へ発信しました。空港の方から

『パンで180セットも販売できるなんて、すごい！！周りの商店よりもよく売れている。ぜひ、また販売に来て欲しい！』と依頼されました。五勇士パンセットを購入された東京都の方から、後日おたよりをいただきました。「香りが良くてとても美味しかったです。甘くないハモとタイは、ワインやビールにもピッタリでした。」と嬉しい声をいただきました。

2月、大阪の難波で2日間、愛媛物産展で販売させていただきました。愛媛の裸麦と伊予市の五勇士をしっかりと宣伝できました。

3月、あこがれの*伊予灘ものがたりで、車内販売を実施。私たちの開発した五勇士パンを関西方面からいらしたお客様に、たくさん購入していただき励みになりました。このように様々な販売普及活動を通して、裸麦パンを広めました。 ※JR 観光列車



まとめ

- (1) 販売数の増加や完売までの時間から裸麦パンの普及を確信できた。
- (2) 地元企業と連携し、伊予市を始め全国へ販路を拡大できた。
- (3) 商品の販売活動で、裸麦の良さや愛媛の大切な地域資産であることを社会にPRできた。

(2) **失われつつある伝統工芸品を現代風にアレンジ**

はじめに

学校の被服教室から約60年前の伊予かすりを発見しました。愛媛の伝統工芸品であり、伊予市の特産物であった伊予かすりは、綿糸を藍染めし、たて糸とよこ糸で模様を作りだした貴重な綿織物です。伊予かすりは日本三大かすりの一つで約100年前には全国一のかすり生産量を誇っていましたが、生活の洋風化に伴い需要は減少し、製造業者は現在松山市の伊予かすり会館だけです。また、認知度も低く、「伊予かすりを知っていますか？」と生活科学科の生徒115名にアンケートを実施すると、「知っている」と回答したのはわずか10%でした。かつての特産物を地元の人も知らないのが現状です。そこで私たちは、伊予かすりをたくさんの人に知ってほしいとの思いで地域産業の活性化のために活動しました。

まずは、材質試験を行い、お手玉、コースター、ティディベアなど実用手芸小物を製作しました。製作していく段階で、伊予かすりの性質や特徴などを学ぶことができました。次に技術検定の作品制作にチャレンジしました。3級のーフパンツ、2級和服のじんべい、2級洋服のブラウス、1級和服のゆかた、そして1級洋服のジャケットを製作しました。

ブラウスではかすりの量や入れ方、形など少しずつ変えて、アレンジしました。ブラウスはジャパンブルーが映え、人気の作品となりました。

これまでの取組の成果により愛媛県東温市にある劇場「坊っちゃん劇場」から舞台（「道後湯の里」）で使用する浴衣を4着縫ってほしいとの依頼があり、動きにも耐えられるよう丈夫に縫製しました。

さらに、松山市立子規記念博物館の女性職員の制服を作ってほしいとの依頼を受けました。裾にラインを付け、胸ポケットのライン幅を細くしたり、くるみボタンの直径を大きくし、そでのラインを太くしました。女性の曲線美を出してエレガントに仕上げるためにダーツを前後に入れ、最後に「IYON OU」ブランドの刺繍を貼り付けました。



普及活動

①展示活動

製作した作品を校内・伊予市内・坊っちゃん劇場など7ヵ所で展示

②販売活動

校内のPTA総会・ラン展、伊予市のイベントなど8ヵ所で販売。これまでの巾着袋の販売贈呈枚数は、計1600枚を数え多くの人の手に渡りました。

③講習活動

きんちゃく袋の講習会を生徒・保護者・中学生対象で実施しました。

④研修活動

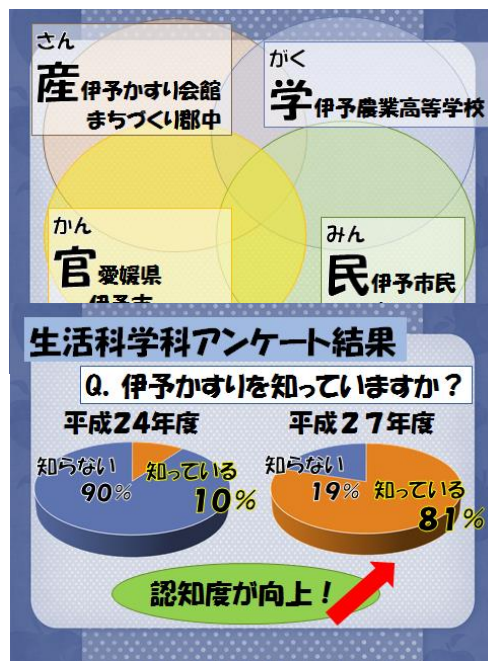
伊予かすり会館の職員、松山ビジネスカレッジ専門学校や洋裁マイスターの先生方にかすりを生かす方法や技術を指導していただきました。

⑤地域交流活動

伊予市北山崎小学校、伊予市あすなろ児童館、伊予市夜市で裁縫グッズの作り方等のワークショップを行いました。

⑥贈呈活動

ネームカードストラップは、とりのき保育所、あすなろ児童館、伊予農事務室に計286本贈呈しました。



まとめ

- 1 こどもを対象にした活動は家族、地域への波及効果があった。
- 2 今年度の生活科学科のアンケート結果から認知度は上がっていて、今までの私たちの活動の成果があったと考えられる。

今後の課題

- 1 産・学・官・民の連携によって地域活性化のために交流を続けていきたい。
- 2 伊予かすりの織りの技術を習得し、伝統工芸品を復活させたい。

4 まとめ

地域産業の活性化に向け、農業クラブ員ができることはまだまだあると思います。高校生だから考え方が甘かったり、未熟だったりすると思いますが、行動力と発想力があります。地域の産・官・民と連携することで活動内容が深まり、広がります。地域だけではできないこと、農業クラブ員だけではできないことは多くあると思いますが、連携することで地域活性化に寄与できるよう、活動を継続して行きたいと思います。今後も地域理解に努め、高校生だからできることにチャレンジしていきたいと考えています。